

## テーマ「総合学園の強みを生かした教育連携」

帝塚山学園は、第4次中期計画の重点目標として「教育連携の強化」を掲げ、

幼稚園から大学までが一体となってその推進に取り組んでいます。

今回で2回目となる「教育連携対談」では、学園教育を今後一層充実・発展させるため、

池田節小学校長と池辺政人中学校高等学校校長が、

総合学園の強みを生かした教育連携の在り方について対談しました。

(聞き手 教育連携室次長 奥田 秀紀)

はじめに帝塚山小学校と帝塚山中学校高等  
学校の特色について、お聞かせください。

**池田** 小学校の特色としましては、まず第一に加速度的に進化を遂げる最先端の教育を先進的に実践していることです。具体的にはプログラミング学習やロボット学習、また1年生から英語教育に取り組んでいます。次に、自ら考える子どもを育て、共感力を高める教育を取り組んでいます。本物に触れる体験を多く取り入れ、児童一人一人

の根っこを鍛える教育を進めています。

**池辺** 中学校の特色としましては、生徒一人一人を大切にする教育を実践し、生徒それぞれの進路や特長に応じた教育相談を行なうなど、幅広い対応を行っています。また、昨年度からは、グループ学習によるポスター・セッションなど、グローバルキャリア教育を進めていることです。

### 池田校長 連携は帝塚山ブランドを高める



教育連携を進めるあたり、総合学園としてのメリットをどのようにお考えですか。

**池田** 今年も昨年に引き続き中高の協力ができました。ダンス曲が中高体育祭と重なったこともあり、小学生が中高生の練習を、また、中高生が小学生の練習風景を見ていきました。小学生が目標とする先輩の姿と中高生が成長してほしいと願う後輩の姿が同じキャンパスだから目にすることができ、互いに親近感が生まれ好ましい雰囲気となりました。中高生が日曜日にもかかわらず、進んで小学校の運動会の片付けをしてくれたことが小学校にとっては何よりも嬉しいことでした。

**池辺** これまで、内部の連携を意識できていない頃は、小学校の活動がなかなか見えにくいものでしたが、こうして学園の小中学生が運動会などの学校行事を通じてグランドを共有することで、互いにつつながっているんだという意識が芽生え始めています。練習とはいって、同じ空間を使って、互いに小学生と中学生が同じ場所で活動する姿が見えることは小学生、中学生共に、人間的な成長にとって、とても意義あることだと感じています。

中学入学までに身に付けさせておきたいことや身に付けておいてほしいとお考えになることはどのようなことですか。

**池田** 一つ目は自分のための主体的で自主的な学習習慣を身に付けておいてほしいことです。二つ目は、試験や入試のためになく、学ぶことは楽しいと実感し、この先学び続ける生徒に育つてほしいと思うことです。現在は1年生から6年生まで自作ノートを作つて日々の歩みを振り返る習慣を身に付けています。三つ目には、発信力と表現力です。自分が発想した考え方を発信する力やたとえうまく話せなくても書いて表現する力を身に付けておいてほしいと思います。

**池辺** 中学校入学までを意識いただき子どもたちに身に付けてくださることは本当に感謝すべきことです。生徒は、教科学習だけでなく、何事にも問題意識や課題意識をもつて関わることでおもしろさを実感し成長するものだと思います。入学当初から互いを意識し合うことを重視して4月末に学園祭を実施し生徒間の交流を図っています。また、HRでの仲間づくりや学級担任との面談を実施し互いの理解が進むように努力しています。



池田小学校長・奥田教育連携室次長・池辺中学校高等学校校長

と児童や保護者の受け取り方が変わり、内  
部の連携を実感として深くお知りいただ  
ことになるかもしれません。



## 池辺校長 互いの交流が人間としての成長

### 小学生への中学見学や体験、保護者への説明はどのようにされていますか。

池辺 昨年度から初めて小学4年生の保護者向けに学校見学を行いました。小学5年生には直接中学校に招き、中学校での授業体験など体験学習を行っています。早い段階で帝塚山中学校の生活を知つてもらうことで、内部の連携にも役立ち、帝塚山中学校の魅力を感じていただけるとありがたいと思います。

### 小・中高間の教育連携について今後、新しくどのようなことを取り入れたいとお考えですか。

池田 これからは、何よりも先に「授業交流」を行っていきたいと考えています。現在、小学校から幼稚園へは英語、算数、図工の専任教員が園児に教えています。中学の先生には、是非小学校に来ていただき何らかの授業をしてほしいと思っています。二つ目はクラブ活動などの「生徒間交流」です。そして三つ目は「先生間交流」です。研究授業をお互いに参観し合うことでそれぞの校種理解につながると思います。ま

た、クラブ活動や合宿への参加など、子どもたちへの指導をサポートしていただくことで、子どもたちが中学校に進学してからの安心感や親密感をもつきつかけになるのではないかでしょうか。

池辺 三つの交流を進めるにあたっては、まず企画段階から始めることで小中の教員間の相互理解も深まると思います。まずは、できるところから始めていけばと思いま

### 今後の抱負について、お聞かせください。

池田 今後は、児童の前で話してもらつて、小学校に招き、児童の前で話してもらつてラブ活動、生徒会で活躍していることや社会に出て活躍していることを聞くと大変嬉しいです。そうした先輩を外部講師としてボット部に来てもらえばうれしいです。また、生徒間交流では吹奏楽部やバスケットボール、サッカーなどの交流を是非進めほしいと思います。先生間の交流では、教科の研究授業やテニス部合宿、剣道部の交流等が実現できればと思っています。

池田 現在は生徒交流としては、小学生の体験学習を中学校で実施していますが、逆に小学校を会場に中高の教員が授業を行う

学園創立80周年の2021年までに小学校から中学への内部進学率が70%となることには、どのような効果があると思いますか。

池田 他の私学など、内部進学率の高いない学校は多いですが、内部進学率が高い学校は世間に「連携ができてる」という学園への信頼感が高まり、帝塚山ブランドを高める効果があると思います。

池辺 昨年度から小学校4年生の保護者を対象に学校説明会を始めたのがとても有効な連携になったと思います。一方、内部進

学率を高めるためには、帝塚山中学校以外を受験する児童にも帝塚山の魅力を発信する必要があると思います。スーパー選抜コースなどは勉強だけでなく、クラブ活動や学校行事に伸び伸びと取り組んでいます。男子は受験一本というイメージはあるようですが、体育祭やコーラスコンクールで活躍する男子の姿をご覧いただければ、他の中学校よりも帝塚山中高を選んでいただけると思います。

池辺 中学校高等学校では、社会人講師を招待して講演をお願いがあるので、その方が本校の卒業生だと生徒にとって身近な人となり、質問 자체も面白く盛り上がったものになります。これらの時代は全身で勉強することが大事で、まず自分でやってみて初めて達成感がもてると思います。また、発想力などは、普段からずっと考へているからこそ身に付くものだと思います。自分が考へていることを大切にずっと温めておくことで、初めて何かの形にしていくことができます。つまり、そこに核になるものがあれば、自分から勉強していく力に変えていくよう思います。そんなことをどこかで生徒に伝えていきたいと思っています。

## 富岡将人学園長より



現在、帝塚山学園の教育連携は、教育連携室を中心となって推進しています。なかでも帝塚山小学校と帝塚山中学校高等学校の連携は、総合学園としての強みを生かす重要な内部連携であり、学園発展への要になると考えています。

何よりも先ず連携そのものは、窓口となる人と人の関係で成り立っているものです。小学校、中学校高等学校のそれぞれが、この先、学園の課題でもある内部進学推薦制度の拡充をはじめ、望ましい連携の在り方を見出し、全教職員の共通理解の下に創意工夫ある取組を進めていただくことを願います。